

京都市の人口動態等

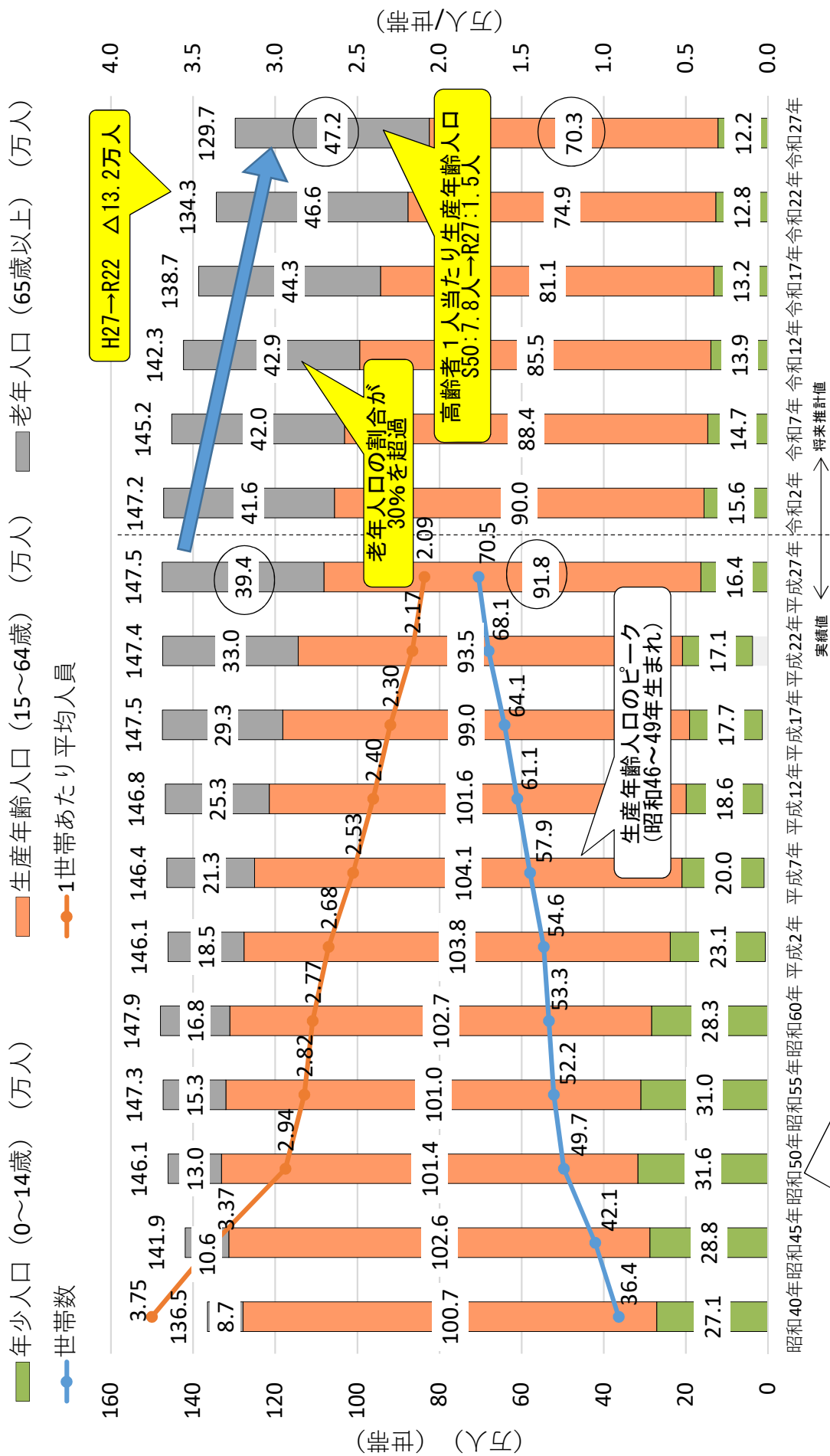
- (1) 京都市の人口推移及び今後の人口推計
- (2) 年齢階層別人口(政令市平均との比較)
- (3) 世帯数・共働き世帯数の推移

＜参考＞

- ・ 政令市(5大市＋札幌・福岡)の10年間の人口・市税の伸び率
- ・ 年齢階層別の収入・資産・負債の状況

(1) 京都市の人口推移及び今後の人口推計（昭和40年～令和27年）

本市の人口は、減少すると見込んでいたところをほぼ横ばいで維持推移してきたが、以降は減少に転じ、20年後（令和22年）には約13万人（約9%）減少すると推計されている。

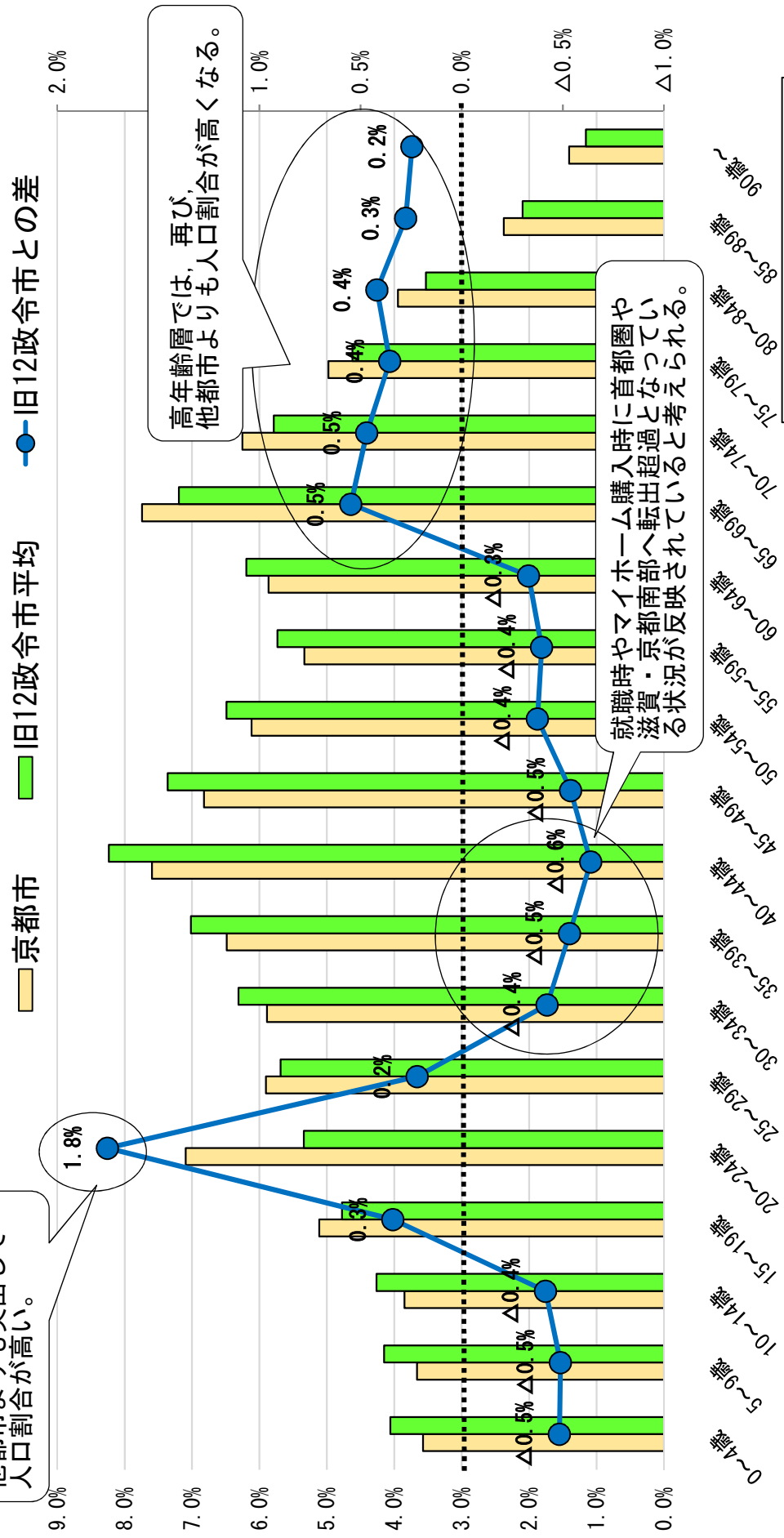


資料)総務省「国勢調査(平成27年まで)」,
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」(令和2年以降)

(2) 年齢別人口割合（政令市平均との比較）

本市の年齢別人口割合は、他の政令市と比べると、20歳前後及び65歳以上の世代で他都市よりも高くなっている。

大学・大学院の年齢層は他都市よりも突出して人口割合が高い。

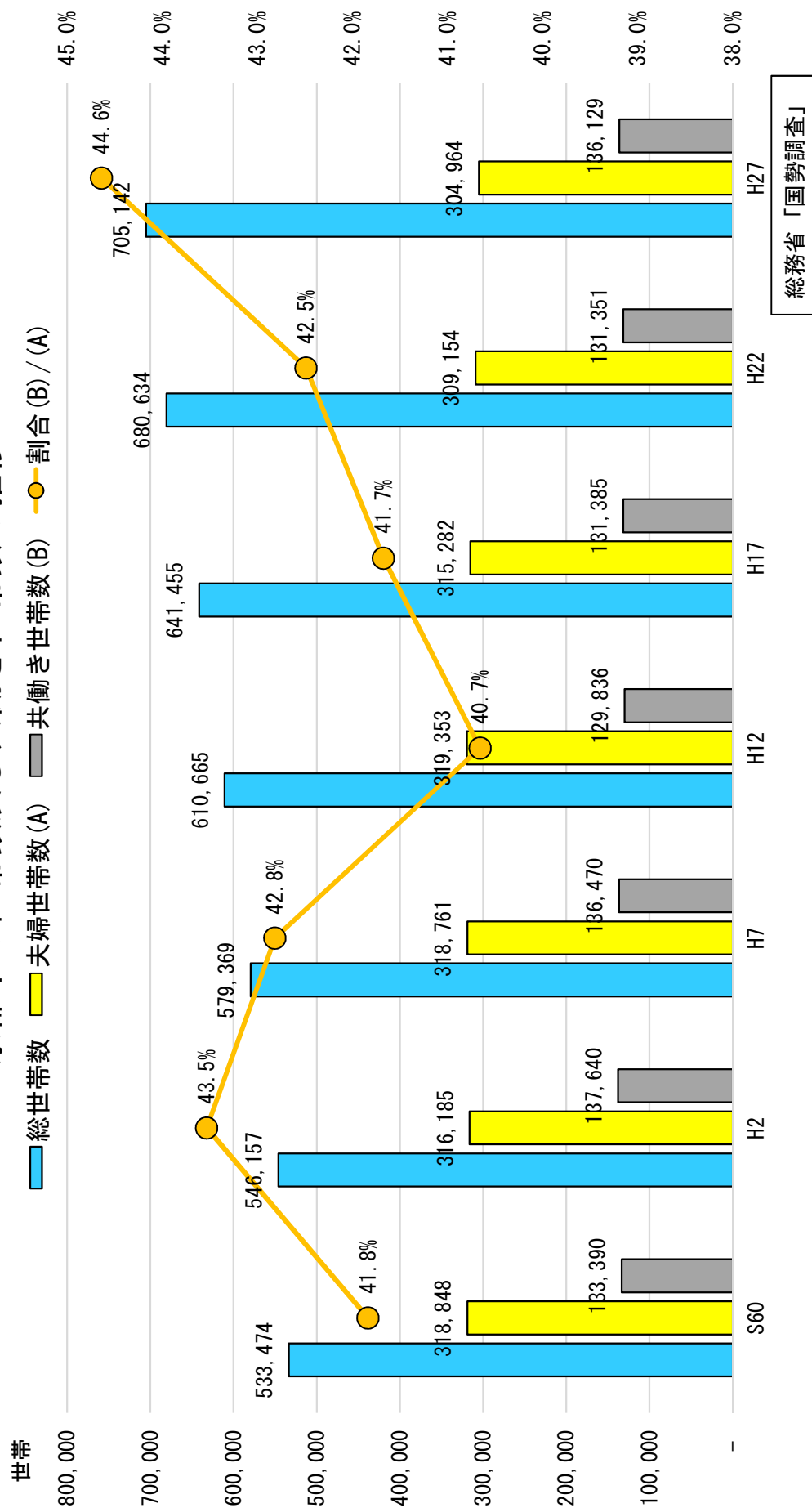


総務省「国勢調査（平成27年）」

(3) 世帯数・共働き世帯数の推移

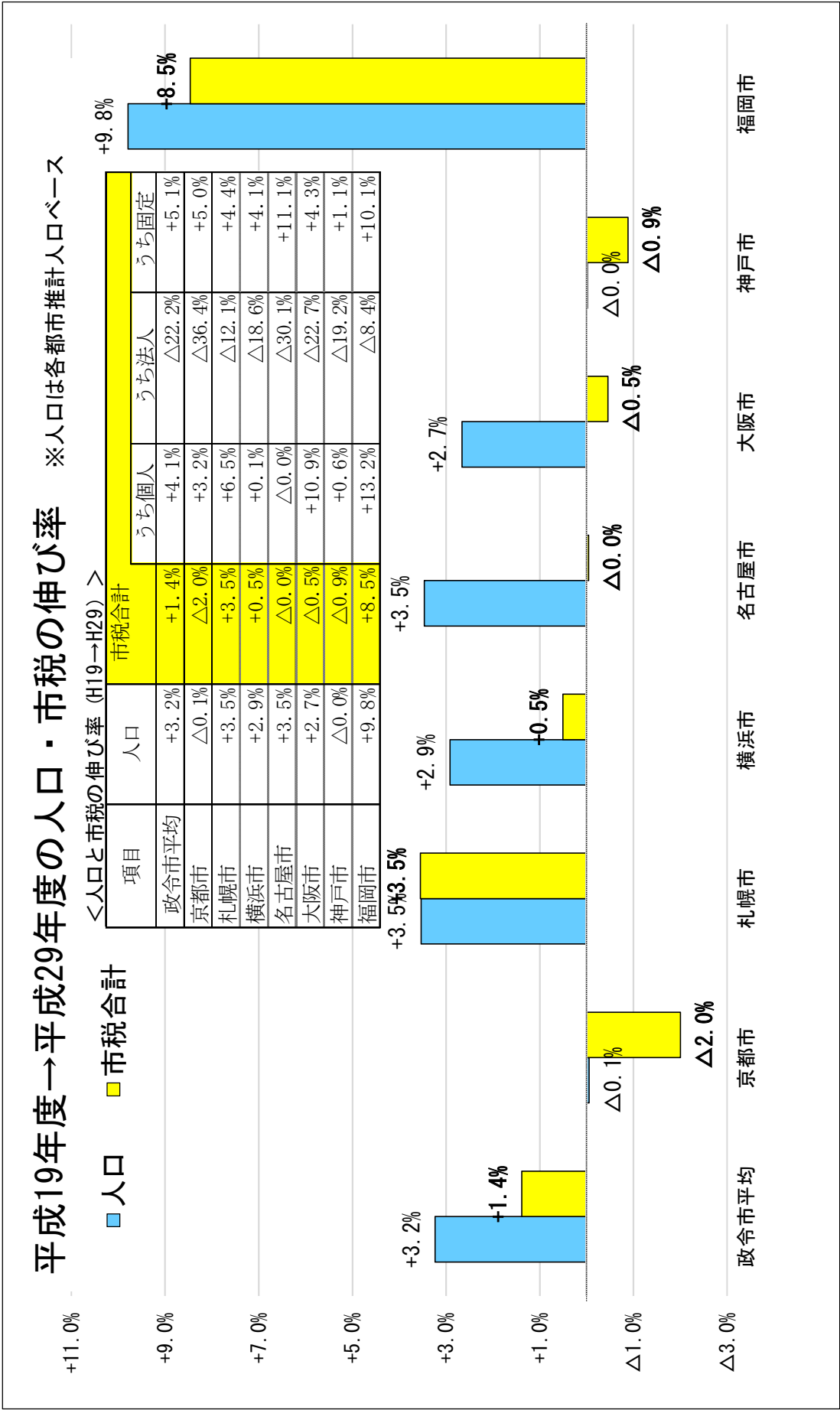
本市の総世帯数は、核家族化等により増加。夫婦のいる世帯数は、微減。共働き世帯は、一時、減少傾向にあったが、近年は再び増加している。

京都市の世帯数及び共働き世帯数の推移



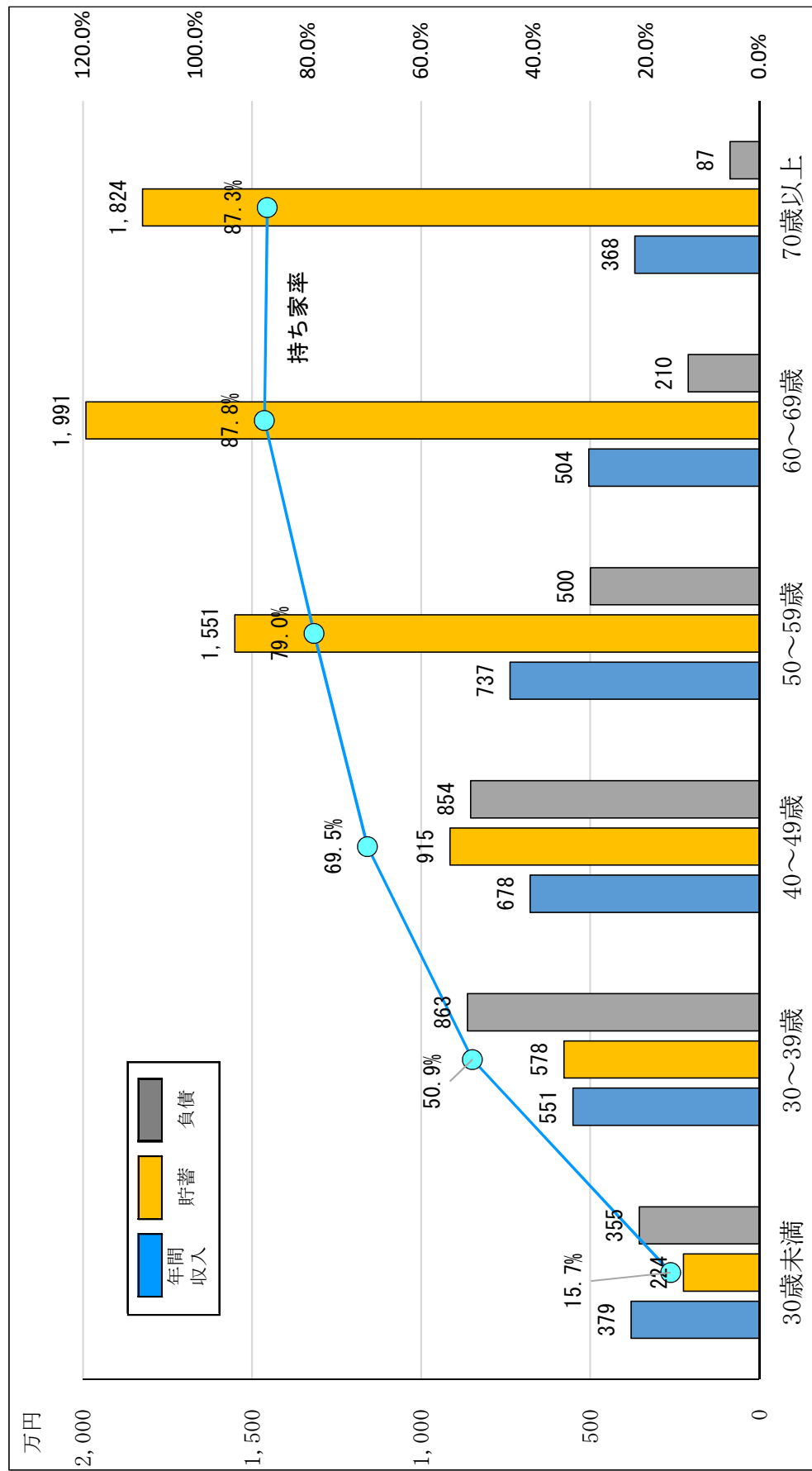
<参考1>政令市（5大市＋札幌・福岡）の10年間の人口・市税の伸び率

○リーマンショックによる景気後退があった中でも、市税が増加している都市は、人口も増加している（札幌、福岡）



＜参考２＞ 年齢階層別の収入・資産・負債の状況

世帯主年齢を階層別に見ると、高くなればなるほど、資産が増加し、負債が減少
また、世帯の年間収入は、30歳未満の階層より60～69歳の階層の方が高い。



総務省「全国消費実態調査」（平成26年）
※全国の世帯を対象とした抽出調査。ただし、学生の単身世帯、15歳未満の単身世帯等は対象外